

令和6年度 学校評価報告書

丹波篠山市立篠山東中学校

校長 尾松直樹

1 学校教育目標等

【教育目標】 つなぐ力を持ち、自ら考え判断し行動できる生徒の育成
 ～ 創造（考えて）・挑戦（やってみて）・感動（次の意欲へ）～

2 今年度の重点目標

- 1 確かな学力の育成
- 2 安全安心な居場所づくりと絆づくりに向けた生徒指導
- 3 地域とともにある学校づくり
- 4 教職員の育成と働き方改革（ウェルビーイングな職場）

3 学校自己評価結果

（達成状況…A：よく達成できた B：達成できた C：やや課題が残る D：改善を要する）

分野	評価項目	達成状況	取組状況・改善方策
学 習 指 導	授業の最初に「めあて」を提示し、最後の「振り返り」を通して理解度をチェックする。	C	授業のユニバーサル化、既習事項定着の観点からも本校の課題といえる。研究推進の取組とリンクさせ、授業スタンダードとして定着を図りたい。
	ペア学習やグループ学習などの対話を取り入れた授業実践を通して、生徒の考えを深めたり広げたりする。	A	集団思考が効果的に取り入れられ、対話を通して学習内容の理解が深まっていると考える。今後も継続して取り組んでいく。
	家庭学習と授業との接続を図るため、学習内容や時間、学習方法（学び方）を指導する。	B	『自学自習』を習慣化させるには、学習方法（学び方）の習得が必須である。教科性等を考慮しつつ、指導の個別化の充実を図りたい。
	休み時間や木曜の放課後（がんばりタイム）等の時間を使い、課題改善に向けて個別指導を行う。	B	自主学習ノートの取組、木曜放課後のがんばりタイムの活用など、全校的な取組を通して、学習への意欲喚起を図れた。家庭学習との接続が課題。
生 徒 指 導	学年・学級経営を基盤とし、誰もが楽しいと思える学校づくり（居場所と絆づくり）に努める。	B	「学校に行くのが楽しい」と回答した生徒の割合は約9割。居場所と絆づくりのためにも、更に縦割り班活動や生徒会活動等の充実に取り組むとともに、校内サポートルームの効果的な活用に努めたい。
	不登校やいじめ等問題行動への対応については、生徒指導委員会において指導方針を定め、専門家（SC, SSW）及び関係機関等と連携して組織的に行う。	B	定例の生徒指導委員会で情報を共有し、個々のケースに対し指導方針を明確に示すことができた。今後も即効性を求めることなく、専門家等と連携を図り、中長期的に粘り強く取組を進めたい。
	毎月の安全点検、交通立番及び年間の各種訓練等を通して、生徒の安全意識・危機回避能力の向上に努める。	B	訓練等のマンネリ化が危惧される。年間計画に基づき、もう少しバランスよく継続した取組が実施できるよう工夫改善を図りたい。
	情報機器等の取り扱いについては、家庭や関係機関等と連携し、生徒の適切な利用を促す指導に努める。	C	利用に課題のある生徒が一定数いることが推察できる。情報発信の頻度を増やし、関係機関等とも連携を図るなどして対応に努めたい。
地 域 あ と る 学 校 に づ く り	学校だよりはじめ、各種たより、ホームページ等を通じて、積極的に情報発信に努める。	A	各種たよりを通して広報活動に努め、意図的・継続的に情報発信を行うことができた。質・量を精査しつつ、内容の充実に努めたい。
	コミュニティ・スクール推進事業を通して、めざす生徒及び学校像を共有し、地域住民の学校運営への積極的な参画と協働の促進に努める。	B	「熟議」「コミスク事業」を通じて、少しずつ学校運営への理解は図られている。今後は地域資源等の活用を通じて、生徒の愛郷精神の醸成を図りたい。
	小中連携（事業）を通して、校区及び校種相互の課題を共有し、育ちと学びの円滑な接続に向けて共通実践を図る。	C	事業を消化するだけでなく、小・中で事業目的を共有し、9年間を通じた学びと育ちについて、今一度校種間で役割分担を明確にする必要がある。
働 き 方 改 革	ノー会議デー、ノー部活デー及び週1回の定時退勤日の完全実施に向けて、組織的実践を進める。	C	小規模校故に教職員1人当たりの業務量も多く、各種取組の完全実施には至らなかった。次年度に向けては、業務量の削減・平準化を図りたい。
	計画的な年休取得を推進し、教職員の健康の保持増進を図るとともに、勤務時間の割り振りを確実にを行う。	B	概ね実施できたが、個人差もあり課題を残した。次年度は組織的に取組を進め、学年団（ライン）で可能な限りケアができるよう改善に努めたい。
	学校評価等を基に学校課題を“見える化”し、共有化を図るとともに、次年度に向けた対応方策の決定及びカリキュラム・マネジメントを進め改善を図る。	B	学校改革推進委員会を情報共有の場に留めず、学校課題の共有及び次年度への改革につながる校内コア委員会として機能させる。今年度、その役割を果たせたことは成果である。

4 学校関係者評価結果

(1) 重点目標についての評価

- ・全般的に良好である。今後もこのような重点目標を掲げて取り組んでほしい。
- ・「確かな学力の育成」においては、知識をいかに活用するかが弱いのではないかと。
- ・教育活動を様々な観点から振り返り、見直しを図り、課題改善に向けて具体的な方策が示されているので、今後の実践に期待したい。

(2) 総合的な評価（意見・感想）

- ・生徒たちが大きな声で挨拶をしてくれる。人として当たり前のことだがすごく大事なことで、これからも続けてほしい。
- ・教師の熱心で高度な学習指導、愛情ある生徒指導等の取組は、東中生徒たちに無形の財産として身につけ、将来の礎になると思う。
- ・外部の方に参観を設定するならば、今後、学校評価等の項目に合致するような授業を実施するよう希望する。
- ・現在の社会の状況、社会教育の機会がたくさんあれば、生徒たちの素直な目で、何が正しくて何が間違っているのかを判断する力が身につくのではないかと。
- ・様々な取組を通して、目標管理を確実に実施されていることに感心した。
- ・丁寧に細やかに関わっておられることを感じる。体育祭や文化祭、オープンスクール等に参加し、元気で伸び伸びとした生徒たちの姿を見せていただいた。今後も地域とともに学校づくりを進めてほしい。
- ・課題については改善し、良い面については更に伸ばして、生徒たちに自信を持たせてほしい。

(3) 学校自己評価の結果及び改善方策についての評価

分野	学校自己評価の結果及び改善方策についての評価
学習指導	<ul style="list-style-type: none">・生徒は教師を信頼し、保護者の愛情をいっぱい受けている。この環境下で、教師は指導力の向上をめざし、生徒も素直に学習し、学力の向上に努めている。・個々の能力の伸長も大事だが、集団で物事を考え答えを導き出すことも大事である。皆で何かを成し遂げる（達成感を実感できる）機会があればよいのではないかと。・「がんばりタイム」の取組を通して、毎日の家庭学習の習慣が身につけてきている。是非とも継続してほしい。・一人一台端末の活用が授業の随所で見られた。操作スキルも含め、様々な場面での活用を期待する。
生徒指導	<ul style="list-style-type: none">・今年度から、校内にサポートルームが作られているので、教室（集団）に入りにくい生徒でもその部屋なら登校できているのは居場所が確保できている証である。いじめも解消されているので、この状態を継続してほしい。・個性を伸ばすことも大事だが社会生活における協調性も大事である。相手の個性を認めつつ、自分の個性を認めてもらう。相互の理解が協調性を育むと思う。・いじめ問題について細やかな配慮をされ、指導をされている。人に優しくできる。優しい心の育成と合わせ、自分自身が悩みを持った時に助けを求めることができる身近な人との信頼関係づくりを深めていけるとよいと思う。
地域とともにある学校づくり	<ul style="list-style-type: none">・保護者は教師を信頼していて大変良好な関係であると感じた。学校だよりも、今少し保護者の意見や生徒の感想などを盛り込んだらどうかと思う。・学校だより等で、学校の様子・生徒の様子がよくわかった。引き続き発信していただきたい。・小・中連携については、様々な調整等必要なこともあり難しいと思うが、児童たちが希望と期待を持って中学校生活をスタートできるよう取組を進めていただきたい。・学校運営協議会の中で、生徒会役員の生の声を聞く機会があった。今後も、是非このような機会をつくっていただきたい。
働き方改革	<ul style="list-style-type: none">・教職員が様々な課題に取り組み、考える時間を確保するためにも、校内における作業バランスを工夫すべきである。・いろいろな活動を見ていると、教師も大変で年代を追うごとに仕事量も増えてきているように思う。健康で働きやすい環境づくりは大切だと痛感しました。・教育行政にも注力いただき、よい方向に改善されることを願っている。